

# セキュリティ対策

-72-

一般的な対策も有効

独立行政法人情報処理推進機構（IPA）では、経済産業省の告示に基づき、コンピュータウイルスなどによる被害の状況把握や対策検討を目的として、不正アクセスに関する届け出を受け付けている。2022年下半期（7～12月）に届け出のあった被害について全体を通して見る

【事例①】VPN装置の脆弱性を悪用したサーバー攻撃  
届け出企業の複数台のサーバーとパソコン上のファイルが暗号化され、脅迫文とみられるテキストファイルが残されていた。従業員が気付いた。脅迫文や暗号化されたファイルの拡張子などか

ら、Cringing（クリング）と呼ばれるランサムウェアの攻撃を受けたものと推定している。原因については、不審なVPN（仮想専用線）接続ログが見つかったことから、VP

## 不正アクセスの被害状況公開

【事例②】初動対応後の再発防止策として、脆弱性を悪用した攻撃を受けたサーバーに、再度の攻撃と複数回の影響が発生した被害

つ別のセキュリティソフトを導入した。さらに、資産管理ソフトの導入により、管理者にも確認された。しかし、メールは導入していた

【事例③】脆弱性を悪用した攻撃を受けたサーバーに、再度の攻撃と複数回の影響が発生した被害

初、脆弱性の存在に気づいた。対応として、他の被害事例については、IPAのホームページに報告書が掲載されているので確認してほしい。

同様に被害の早期発見や未然防止といったセキュリティ上の取り組みの促進につながることを期待する。

本事例の詳細や、その他の被害事例については、IPAのホームページに報告書が掲載されているので確認してほしい。

### IPAの報告書活用を

